



12月の花 ノボロギク

冬といっても晴れば日さしの暖かい湘南では厳寒期にも花をつけている草が見られます。その多くは道ばたや畑の雑草で、寒い地方では春になって花をつけるものです。ナズナ、オオイヌノフグリ、ホトケノザなどにまざって、このノボロギクもよく見かける種類の一つです。目立った花びらを持たない、ごく地味な花ですが、よく見ると花を包んでいる総苞片の先が三角形に黒く、しゃれた模様になっています。

特別展 日本の蝶—三島直行コレクション—

蝶はその美しい翅で軽やかに飛ぶ姿から、昆虫の中でも特に親しまれ愛される存在となってきました。日本に土着している蝶は、北海道から沖縄までを含めて約230種類がありますが、このたび三島直行氏の御好意で、その大部分を展示できることとなりました。

会期 12月2日(火)~1月11日(日)
会場 特別展示室 入場無料



12月の行事

●星を見る会 「秋と冬の星座を見よう」
秋と冬の星座をさがし、その中の天体を観察します。メ切りました
日時：12月9日(火)17時~19時

●土曜観察会
(毎月第2・4土曜日、14時~17時)

12月13日 ハクセキレイのねぐら 馬入橋

●体験学習シリーズ№48 「おかしりを作ろう」
正月に家の玄関などにかざるオカザリを作ってみます。

日時：12月14日(日)10時~15時
申し込み：12月3日までに往復ハガキで。
定員：先着30名。

●美術講演会「中国陶磁器」

陶磁器の白眉といわれる宋・元の陶磁器を中心にスライドまじえ名品の観賞と宋元文化について考えてみる。

- とき 1月24日(土)午後1時から
- ところ 平塚市博物館講堂
- 講師 矢部良明氏 (東京国立博物館)
- 参加 中学生以上を対象にする。(参加自由)

●体験学習シリーズNo.49 「陶器を作ろう」

土をこね、器に作りあげる工程を体験してみましょう。

- 対象 一般成人
- とき 1月20日(火)から24日(土)まで
連日5日間
- 定員 30名、多いとき先着順とする。
- 参加費 1人500円
- 応募 12月20日までに往復ハガキで

○今月の魚 カダヤシ

2階展示室「川の魚と漁」のコーナーに大きな水槽があるのをご存知でしょう。長い間、魚も入れずよごれたままになっていましたが、11月から定期的に展示替えを行い、淡水魚を順番にご紹介していくことになりました。

カダヤシ



メス



オス

まず一番に登場したのはカダヤシ、メダカによく似た小さな魚です。夏の特別展でも解説したようにカダヤシは北アメリカ原産で、ボウフラ退治のために輸入されたものが各地に広がりました。水の汚れにも強いので、近年、都市の川ではカダヤシしか見られない所も多いようです。動物質の餌を好み、水槽では時々、イトミミズを入れています。卵胎生といって、卵がメスの腹の中でかえり、魚になってから生み出されるのもカダヤシの特徴の一つです。

●1月自然観察会「冬を自然をたずねて」

日：1月18日(日)雨天中止 9時～15時
場所：寒川町周辺
内容：冬の鳥や地形などの観察
申込：1月8日までに往復ハガキで。

●土曜観察会

(毎月第2・4土曜日14時～17時)

1月10日 常緑樹の見分け方 高麗山

1月24日 川原の鳥 花水川

81年3月までの予定表ができています。希望者は、博物館受付に申し出てください。参加は、予定表を見て自由にどうぞ。申し込み不要です。

●星を見る会「冬の星雲、星団を見よう」

冬の星座の中にちりばめられた星雲星団を観察します。

- 日時： 1月24日(土)午後5時～7時
- 申し込み：1月14日までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。

○ハチの巣を届けてください

昨年の冬、皆さんの御協力でアシナガバチの巣をたくさん集めることができました。今年も引き続きハチの巣の調査を計画していますので、庭などで見つけた巣がありましたら、袋に入れて「見つけた場所・あなたの名前・住所・電話番号」を書いたメモと一緒に博物館に届けてください。御協力をお願いします。

○「平塚市博物館 年報第4号」の発刊

博物館では年度ごとの活動の記録をまとめた「年報」を毎年発行しています。第4号は昭和54年度の活動をまとめたもので、○博物館活動報告 ○学芸活動の技術 ○地域博物館への期待 ○収蔵資料目録という内容になっています。

活動報告ということで表や数字が多く、読みづらい点もありますが、1年ごとの足跡をきちんと記録していくことは、よりよい博物館にしていくことに必要なことだと考えています。

なるべく多くの方がたに見ていただきたく思い博物館の受付案内で実費で販売しています。

○B5版 110頁・400円